



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：入植者少年殺害事件

6月30日、行方不明の入植者少年3人の遺体が発見された。遺体が発見されたのはヘブロン北西部のハルフル村付近。報道では、イスラエル国内の治安を担当するシンベドが遺体に関する情報を得た後、イスラエル軍が現場で遺体を発見した。3少年は、12日に拉致された直後に射殺された模様である。

遺体発見後、イスラエルの治安閣議が緊急に開催されたがはっきりした結論に至らず、7月1日も対応策を検討する。ネタニヤフ首相は、同事件はハマースの犯行であり、ハマースが代償を払うべきだと述べた。ハマース及びパレスチナの組織は、殺害への関与を否定している。3少年殺害について、パレスチナ自治政府は公式なコメントを出していないが、アッバース大統領は30日に緊急の会合を開催している。

評価

入植者少年3人が殺害されたことで、イスラエル側は、国民を納得させるに十分な対応策を取るだろう。他方、過度の報復を行うと西岸・ガザ情勢を緊迫化させ、パレスチナ側からの反発や国際社会から過度の武力行使を非難される恐れがある。容疑者として2名のハマース活動家が浮上しているが、真偽の程は不明である。仮に彼らの犯行であるとしても、それがハマースの組織的な犯行と見なせるかどうかの判断は難しいだろう。2013年に西岸では、組織ではなく個人による突発的な犯行が増加していた（2013年12月26日『中東かわら版：増加傾向にあるパレスチナ人のイスラエル人攻撃件数』参照）。イスラエル側が、国際社会が納得する証拠を提示するのか、あるいは政治判断としてハマースの犯行だと決め付けるのかもポイントの一つだろう。

少年らが行方不明になった後、ガザの武装勢力によるイスラエル南部へのロケット弾攻撃が増加し、イスラエル軍の報復空爆も頻発している。ハマースやイスラーム聖戦機構は、入植者少年殺害の報復行動をイスラエル軍がガザに対して行うことを警戒している。

（中島主席研究員）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799